

いのち 生命のにぎわいとつながり

No.38

平成26年5月

生物多様性基本法に基づく生物多様性地域戦略を策定している県内市町村は、3市にとどまっています(平成25年度末現在)。今後、地域戦略づくりを推進していくためには、多くの県民・企業等に生物多様性について関心をもっていただく必要があります。

本号では、企業と連携した取組として鴨川シーワールドにオープンした「生物多様性コーナー」について紹介します。また、県で推進している生物多様性に関する企業との連携の内容や生命のにぎわい調査団の調査フォーラムの開催結果、並びに県で新たに設置した生物多様性サテライトの概要についても報告します。

鴨川シーワールドに「生物多様性コーナー」がオープン



鴨川シーワールドにオープンした「生物多様性コーナー」

生物多様性ちば企業ネットワークのメンバーであり、絶滅危惧種の系統保存に県と連携して取組んでいる鴨川シーワールドに、4月26日「生物多様性コーナー」が設置されました。

同コーナーでは、県内に生息する絶滅危惧種のミヤ

コタナゴとシャープゲンゴロウモドキを水槽でご覧いただくことができます。また、県の生物多様性サテライトを併設しており、生物多様性の重要性を知っていただくためのパネル展示やリーフレット等の配布を行っています。(鈴木 規慈 千葉県生物多様性センター)

CONTENTS

1	鴨川シーワールドに「生物多様性コーナー」がオープン	1
2	企業との連携の推進	2
3	平成25年度 生命(いのち)のにぎわい「調査フォーラム」を開催しました!!	3
4	生物多様性サテライトは、8ヶ所になりました	4
5	千葉県の外来種(タイリクバラタナゴ)	4

企業との連携の推進

私たちは、直接的・間接的に生物多様性の恩恵を受けており、企業活動も例外ではありません。そのため、生物多様性の急速な損失は、企業の存続に関わる問題でもあります。同時に、企業活動は生物多様性に多大な影響を与えており、生物多様性の危機的な状況を改善するためには、企業の事業活動においても多様な主体との連携・協働のもと、生物多様性の保全に取り組んでいただくことが必要です。そこで、県では、企業の取組を支援する活動を行っています。

1 企業と生物多様性セミナー

平成21年度から、(社)千葉県環境保全協議会と(社)千葉県経済協議会との共催で、千葉県内の生物多様性に関する情報や先進的な企業による取組事例などの情報共有を行うための「企業と生物多様性セミナー」を開催しています。是非、ご参加ください。

これまでに開催したセミナー

第1回 企業が生物多様性に取り組むメリット H21.12.1

- 「鹿島の生物多様性への取組み」
鹿島建設(株) 山田 順之 氏

第2回 生物多様性とマーケティング H22.2.1

- 「生物多様性とマーケティング」
CBD市民ネットワーク 服部 徹 氏

第3回 生物多様性が招く企業リスク H22.4.19

- 「パームオイル利用企業と生物多様性」
サラヤ(株) 代島 裕世 氏
- 事例紹介 出光興産(株)、東京ガス(株)、(株)ヤマトマネキン

第4回 生物多様性への影響緩和のために H22.6.18

- 「生物多様性オフセット・バンキング」
東京都市大学 田中 章 氏
- 事例紹介 東電環境エンジニアリング(株)、NPO法人ちば里山センター

第5回 生物多様性への取組に向けて H22.8.26

- 「現地見学東京電力ビオトープそが」
- 事例紹介 キッコーマン(株)、(株)クボタ、ワタミ(株)

第6回 COP10で何が議論されたか H22.12.2

- 「企業にとっての生物多様性」
日経BP社 藤田 香 氏
- 事例紹介 山万(株)、シャープ(株)

第7回 市場メカニズムを活用した生物多様性の保全 H23.2.10

- 「金融機関の生物多様性への取組」
住友信託銀行(株) 後藤 文昭 氏
- 事例紹介 宝酒造(株)

第8回 取組に向けた第一歩 H23.7.12

- 「民間参画パートナーシップおよび民間参画ガイドラインについて」
経団連自然保護協議会 石原 博 氏
- 事例紹介 イオン(株)、富士通(株)

第9回 生物多様性とコミュニケーション H24.2.9

- 「生物多様性はコミュニケーションの世界」
(株)博報堂DYメディアパートナーズ 川廷 昌弘 氏
- 事例紹介 利根コカ・コーラボトリング(株)

第10回 生物多様性ちば企業ネットワーク H25.2.21

- 「地域における企業と生物多様性に関する考察」
(株)博報堂 川廷 昌弘 氏
- 事例紹介 イオン(株)、キッコーマン(株)、出光興産(株)、鴨川シーワールド

第11回 工場敷地を活用した生物多様性の保全 H25.9.12

- 「工場を中心とした生態系ネットワークの構築と希少な動植物の生息域外保全」
(株)東芝 藤枝 一也 氏

第12回 事業活動と生物多様性保健との関わり H26.2.18

- 「味の素グループの生物多様性への取組み」
味の素(株) 杉本 信幸 氏
- 事例紹介 清水建設(株)、(株)グリーン・ワイズ、鴨川シーワールド



第12回セミナー 味の素(株) 杉本信幸氏による講演

2 生物多様性ちば企業ネットワーク

企業における生物多様性に対する理解の促進や生物多様性の保全に向けた取組を広げていくこと、またその支援を図ることを目的として、平成25年4月1日、「生物多様性ちば企業ネットワーク」を創設しました。

県では、企業メンバーの取組の状況に応じ、生物多様性に関する各種の情報提供、社内研修会への講師派遣、参加企業を対象とした勉強会の開催等を行っています。企業メンバー及び支援メンバー(市町村、NPO、大学等)へのご参加をお待ちしております。

〈企業メンバー〉

旭硝子(株)千葉工場、キッコーマン(株)、セイコーインスツル(株)、(株)安藤・間技術本部、(株)グランビスタホ

テル&リゾート鴨川シーワールド、(株)グリーン・ワイズ、清水建設(株)千葉支店、出光興産(株)千葉製油所・千葉工場、イオン(株)、東日本電信電話(株)千葉支店、(株)千葉銀行、リンテック(株)、(株)フジクラ佐倉事業所

〈支援メンバー〉

東京都市大学環境学部田中章研究室、(社)CEPA ジャパン、(公財)日本生態系協会、NPO法人ちば里山センター、(公財)日本自然保護協会

〈H25年度の活動実績〉

- 情報提供メール 23通
- 勉強会 2回
 - 第1回 H25.7.4
(テーマ 工場・事業場の緑地と生物多様性)
 - 第2回 H25.11.14
(テーマ 生物多様性オフセット)
(鈴木 芳博 千葉県生物多様性センター)

いのち
平成25年度 生命のにぎわい
「調査フォーラム」を
開催しました!!

県民参加型の生物モニタリングである生命(いのち)のにぎわい調査団はこの3月で設立から5年8か月が経過し、団員は901名となり、報告件数は延べ約30,400件(1年間で約8千件)となりました。毎年2〜3月頃に、調査フォーラムを開催し、調査団員へ調査報告結果のとりまとめや生物多様性に関する普及啓発等の情報提供、並びに団員相互の意見交換を行っています。本号では、平成26年3月15日に開催したフォーラムの概要を紹介します。

1 講演「生物多様性を知る〜イノシシの影響について」

講演者 千葉県生物多様性センター 浅田 正彦

千葉県に現在生息しているイノシシは、過去に県内で生息していたイノシシとは遺伝的に異なることがわかっており、一度絶滅したのちに人為的に持ち込まれた、国内移入種(=外来種)の可能性が高いと言われています。強い繁殖力で急激に生息地を拡大しており、各地で深刻な作物被害が発生しています。県内の捕獲従事者は高齢化等で減少しており、獣害に負けないために集落全体での対策が必須です。今後は都市部住民の協力も期待されます。

2 報告「生命のにぎわい調査団：調査団の活動と報告から生物多様性の見える化へ」

講演者 千葉県生物多様性センター 柴田 るり子

これまでに報告された情報は、県のレッドデータブックの作成等に活用されています。さらに地理情報システム(GIS)に入力して、生き物の生息分布と植生図等を重ねるなどの解析も行っています。情報を「見える化」することが、希少な生物を保護するだけでなく、生物多様性の豊かさを維持しながら農林水産業や企業の経済活動を行っていく上でどのように役立っているかを紹介しました。

3 団員からの情報提供「観察事例の紹介」

①「現地研修会(夷隅川河口干潟、手賀沼)に参加して観察した生き物」 本田 基令さん

本田さんは、本年度の現地研修会に2回に参加された様子をNHKひるまえほっとへ投稿いただき、いずれも放映されて、調査団の活動を広く広報していただきました。

②「調査団報告の地理情報システム(GIS)によるデータの活用」 佐藤 瑤子さん

佐藤さんは、今年度の大学連携で千葉県のホットスポットを抽出する委託研究の一環で、調査団の報告データを、GISを使用して種ごとに地図化し、植生図等との重ね合わせからわかっていくことなどを話していただきました。

③「楽しく感動のある自然観察会(原田池)」 高見 等さん

小学校の教頭先生である高見さんからは、希少な生き物の観察などを通して、児童生徒や職員に地域の環境を守ることの重要性について伝えていただくと紹介していただきました。

4 平成25年度調査団「写真コンテスト」の審査結果

応募33作品から、フォーラム参加者の投票により最優秀賞と優秀賞を決定しました。

これらの作品は、今後、センター年報の表紙等を飾ることになります。他の応募作品も、県刊行物・ハンドブック等に掲載活用させていただきます。



最優秀賞 「ド迫力! (コミミズク)」和田 信裕さん



優秀賞 「エナガ5兄弟」和田 敦子さん
(御巫 由紀 千葉県生物多様性センター)

生物多様性サテライトは 8ヶ所になりました

当センターが制作したパネル等を常設展示し、生物多様性について理解を広めていくための「生物多様性サテライト」は、昨年末の時点で7ヶ所でしたが、平成26年1月21日にキッコーマン株式会社の「もの知りしょうゆ館」(野田市)に新たに設置され、計8ヶ所となりました。

新サテライト用に2枚のポスターを制作しました。これと同様のものを既設の7ヶ所にも掲出しています。ポスターの1枚に用いられたニホンウサギの写真は、生命のにぎわい調査団の団員が撮影されたものです。今後も、このような千葉県の生物多様性を物語る美しい写真をポスターで採用し、サテライトで紹介していく予定です。



キッコーマン(株) もの知りしょうゆ館に新たに設置されたサテライト
(御巫 由紀 千葉県生物多様性センター)

千葉県の外来種

タイリクバラタナゴ



タイリクバラタナゴの雌雄(左がメス、右がオス)

バラ(薔薇)の名前のとおり、繁殖期にオスがバラのような美しい婚姻色をまとうタナゴの仲間です。一方、タイリク(大陸)の名前が示すとおり、大陸原産の外来種でもあります。

本種は第二次世界大戦中に中国から食用の目的で持ちこまれた淡水魚類に混入していたと言われています¹⁾。その美しい姿から、観賞用としてはもちろん、タナゴ釣り(おかめ釣り)の対象として多くの釣り人から愛されています。

しかしながら、いくらきれいで愛されていても、外来種である本種は在来種との間に様々な問題を生じさせています。西日本には在来で近縁亜種のニッポンバラタナゴが生息していますが、同種の生息地にタイリクバラタナゴが移入すると、両種は簡単に交雑することが知られています²⁾。さらに、この交雑種はニッポンバラタナゴとタイリクバラタナゴのどちらとも交雑して子孫を残すことができるため、タイリクバラタナゴの移入したニッポンバラタナゴの生息地では、最終的には両種の雑種しか残らないこととなります。つまり、タイリクバラタナゴはいとも簡単にニッポンバラタナゴ(在来種)を絶滅に追いやってしまうのです³⁾。

また、二枚貝類を産卵に使用するタイリクバラタナゴは、他のタナゴ類と競合し、貝を使用できなくなってしまうなどの影響も与えます⁴⁾。このように、美しい外来種が及ぼす影響は多岐にわたるため、生息域の拡大を防止し、在来種を守る必要があります。そのためには、釣ったタイリクバラタナゴを別の場所に移動するなどの行為や、くれぐれも飼っている魚を放流することはやめましょう。皆さんに愛されるタイリクバラタナゴを「愛されない生き物(特定外来生物や条例での規制対象種)」にしないためにも、皆さんの理解と行動が重要です。

<参考文献>

- 1) 長田 芳和(1989)日本の淡水魚. 山と溪谷社. pp. 360-361
- 2) Kawamura et al. (2001) Zoological Science 18: 1027-1039
- 3) 河村 功一 ほか(2009)日本生態学会誌 59: 131-143
- 4) 北村 淳一(2008)魚類学雑誌 55(2): 139-144
(鈴木 規慈 千葉県生物多様性センター)



生物多様性ちばニュースレター No.38 平成26年5月30日発行

編集・発行 千葉県生物多様性センター(環境生活部自然保護課)

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2 (千葉県立中央博物館内)

TEL 043(265)3601 FAX 043(265)3615 URL <http://www.bdcchiba.jp/index.html>